

一般質問通告一覧表

R7.6.5 訂正

【一般質問】 6月11日（水）、12日（木）午前9時～

令和7年第2回定例会

順 番	質問者 会派名 (会派の持ち時間)	質 問 項 目
1	岡 英昭 いなべ未来 (120分) ※質問制限時間は 1人60分	1 新年度に於ける教育の諸課題について (1) 今年度の人事異動に関して ① 管理職の移動規模等は。(校長、教頭の移動状況等) ② 主幹教諭、指導教諭の配置校は。 ③ 新規採用教員数は。 ④ 定年後教員の再任用状況は。 ⑤ 正規教員と非正規教員の小中学校別割合は。 (2) 学校規模と関わって ① 児童生徒数での最大校と最小校の学級数と児童生徒数は。 ② 単学級校数、複数学級ある学校数、学年で異なる校数は。 ③ 管理職の担任また教科担当の有無。 (3) 県内でもいわれる教員不足による学級編成（正規担任）や教科担当編成の影響は。 (4) 今年度もいなべ市で教員不足はあるか、どのようなところに表れているか。 (5) スクールサポートスタッフ（SSS）の配置状況は。 (6) 標準授業時数について ① 標準授業時数を下回る教育課程を編成している学校はないか。 ② 標準授業時数を下回り、指導体制を見直した学校はあるか。 ③ 小中学校の標準授業時数の状況は。(時数、編成方法、学校独自か市統一か等) (7) 教職員の指導力向上、授業改善の取組の現状は。 (8) 教職員関係団体（組合）活動について ① 勤務時間内の組合活動が以前県内で大問題になったが、時間内活動が発生する場合に申告するなどの制度は徹底されているか。 ② 三役等のいる学校組織の状況は。(担任を外す、専科担当に、特別支援学級担当等) (9) 中学校部活動の地域移行に関して ① 昨年度から始まったモデル事業（剣道）を含め増やした2種目（ソフトボール、陸上）計3競技の部活動地域移行の進捗状況は。 ② 3種目に加え、あと2種目増設の可能性があるとのことであったが、その種目は。 ③ 各中学校で行われた部活動の地域移行についての説明会の反応は。 ④ 小学校6年生、中学生等に実施したアンケートの結果は。 ⑤ 市内スポーツ関係団体への部活動地域移行の委託、指導依頼等の打診は行っているのか。その予定はあるのか。 ⑥ 市（教委）が補助金、委託金等を支出している市スポーツ関係団体は。 ⑦ 来年令和8年秋には市内全41部地域移行完了とのことだが、今年度の移行準備のスケジュールは。 ⑧ 「部活動在り方検討委員会」の現時点での主な会議内容と今後の方向性は。 (10) 部活動地域移行を小学生も含めた「居場所づくり」となる生涯教育（学習）活動、地域による活動の場としていくべきとの専門家の考え方がある。 ① 教育委員会が所管する生涯教育活動団体は。 ② こうした議論を含め、移行完了への所見は。

次ページへ続く

順 番	質問者 会派名 (会派の持ち時間)	質 問 項 目
1	岡 英昭 いなべ未来 (120分) ※質問制限時間は 1人60分	(11) 青少年国際交流支援事業について ① いなべ市総合計画実施計画・財政計画の明記された事業の目的に照らして、中学生の海外派遣は事業として必要か。必要であれば、教育委員会が主体的に取り組む考えは。 ② 国際交流協会による豪州（タスマニア）への中学生派遣を行っている。私は大安町議会時代から、航空機を乗り継ぐなどして遠方へ行かずとも近場のアジア、東南アジア等に変更すれば同額予算で2倍以上の中学生数の派遣ができると提言してきた。派遣国の変更を促す考えは。 2 企業進出に関わり (1) 北勢町鼓地区の進出企業について ① 企業の概要は。 ② 操業開始時期は。 ③ 雇用などいなべ市への影響等は。 (2) 石博南前林工業団地について ① 行われた大字石博南自治会長会への説明会の経緯は。(反応、意見等) ② 進出企業の概要は。 ③ 雇用の仕方は。(地元優先、高齢者雇用、学校指定、障がい者雇用等) (3) いなべIC開設による企業進出の予定は。 (4) 員弁土地開発公社の現状は。 (5) 企業誘致土地の今後の開発計画は。 (6) 「オーダーメイド方式」による開発の方針に変更はないか。
2	位田 まさ子 いなべ未来 (120分) ※質問制限時間は 1人60分	1 子どもの居場所づくりについて (1) 施設整備の構想、方針は。 (2) スケジュールは。 (3) 財源は。 2 高齢者の生きがいづくり (1) フレイル予防の取り組みの現状と課題 (2) シルバー人材センターの登録会員及び利用者の増加を図るための取組 (3) 老人クラブ、自治会活動への参加促進に関する取組
3	出口 日佐男 新風いなべ (180分) ※質問制限時間は 1人60分	1 ひとり親家庭等への支援制度の拡充 (1) ひとり親家庭支援制度の見直しについて ① 今回の制度見直し後、支援対象家庭に対する影響や市の支出額の変化について、市はどのように分析しているか。 ② 今後も定期的に制度の効果検証を行い、子どもの成長段階や家庭の実情に応じた支援が行えるよう見直しを検討する考えはあるか。 (2) 祖父母が孫を主たる養育者となっている家庭への支援について ① 祖父母などが児童を養育している家庭の把握は行われているか。また、そのような家庭がどのような支援を受けられるのかを聞く。 ② このような家庭が、現行のひとり親家庭等支援制度やその他の子育て支援から漏れないよう、制度の見直しや柔軟な対応を検討する考えはあるか。 2 地域おこし協力隊リユース事業の進捗と継続性について (1) リユース事業の委託を受けた事業者名と、その事業者が決定した理由は。公募・選定のプロセスを含めて説明を求める。 (2) 木製の粗大ごみ等を素材としてリユースするという答弁であったが、事業は計画どおりに進むのか。具体的な活動内容と進捗を伺う。 (3) 事業を開始して以降、実際に見えてきた課題や想定外の問題点はあるか。それに対してどのような対策を講じているのか。 (4) 改めて問うが、このリユース事業の目的・意義を、市民に対して明確に説明できるか。環境・教育・地域活性化など、どの側面での意義を持たせているのか。

次ページへ続く

順 番	質問者 会派名 (会派の持ち時間)	質 問 項 目
3	出口 日佐男 新風いなべ (180分) ※質問制限時間は 1人60分	(5) インスタグラムを用いて情報発信が行われているようだが、これは市としてどのような戦略・目的・目標に基づいて進めているのか。SNS活用における評価方法は、 (6) この事業が「成功した」または「成功している」と判断できる状態とは、具体的にどのような成果が見えたときと定義しているのか。定量的・定性的な基準があれば示されたい。 (7) 地域おこし協力隊事業は総務省が所管し、任期は1年から3年とされているが、令和7年第1回定例会における答弁で、2年間の活動を見て継続するかどうか判断するとあった。事業が達成困難であると判断された場合、中止や方向転換の可能性はあるのか。その判断基準はどこにあるのか。
4	多湖 公 新風いなべ (180分) ※質問制限時間は 1人60分	1 道路上の視認性・安全性を確保するための雑木等の伐採対応について (1) 雑木や竹等が道路に張り出していることに関する市民や自治会からの通報・要望の件数と、そのうち対応が完了した件数は。 (2) カーブミラーや道路標識の視認性が雑木等によって妨げられている箇所を把握しているのか。また、それに対する点検・対応の体制はどうなっているのか。 (3) 市が委託している伐採事業者は現在何社あるか。また、繁忙期や急な対応が必要なケースでも対応が可能な体制になっているか。 (4) 雑木等の伐採について、年度ごとの計画や優先順位の付け方は。 (5) 要望書の受付から現地確認、事業開始、完了までに平均してどのくらいの期間がかかっているのか。 (6) 現在、自治会に対してはクレーンなどの機材レンタル費用について補助金が出されているが、それを活用できない地域に対して支援・指導していることは。 (7) 伐採事業において、事業完了までの期間を短縮するため、自治会・市・業者それぞれの役割分担や連携は。 2 地域経済への波及と観光施策の深化について (1) 令和元年以降の主な観光事業について、事業ごとの成果の把握と評価はどのように行っているか。また、計画と実績に差異があった事業について、主な要因と今後の対策は。 (2) にぎわいの森など主要施設の整備以降、観光流入人口の推移はどうか。特に市外・県外からの来訪者の割合や、リピーターの比率などの分析は行っているか。 (3) 地元事業者や飲食業などへの波及効果はどのように測定しているか。今後、観光と地元経済との連携を強化するための施策は。 (4) 各観光拠点の間をつなぐ公共交通や二次交通（レンタサイクル、周遊バスなど）の整備状況と今後の展望は。 (5) 市が観光施策において、SNSやWeb等の情報発信にどの程度力を入れているか。また、いなべの魅力を効果的に発信するための戦略はどうなっているか。 (6) 今後、農業公園キャンプ場など新施設が整備される中で、観光拠点を点から面へと広げ、相互連携・回遊性を高めるための計画は。 (7) 観光協会や商工会、地域住民との連携を深めることで、持続可能な観光モデルを築く必要があると考えるが、連携状況と今後の課題は。 (8) 観光施策の中で「関係人口の増加」がうたわれることが多いが、実際に移住・定住につながった具体例や、今後移住につなげるための誘導策はどのように考えているのか。

次ページへ続く

順 番	質問者 会派名 (会派の持ち時間)	質 問 項 目
5	片山 秀樹 新風いなべ (180分) ※質問制限時間は 1人60分	1 東海環状自動車道 二ノ瀬トンネル工事に伴う地域への影響と今後の見通しについて (1) 井戸水の枯渇についての原因調査は行われているのか。中日本高速道路株式会社や施工業者などとの連携状況は。 (2) 農業用水対策について、今後のポンプアップ支援や、水利の恒常的確保に向けた行政の支援策はあるのか。 (3) 土砂流入や浸水対策について、調整池の設置で今後の大雨にも対応可能と判断しているのか。さらなる対策の検討状況は。 (4) 東海環状自動車道の完成見通しについて、現在の工事進捗、トンネルの安全性確認状況、開通時期のめどについて市として把握している情報はるか。 2 太陽光発電事業に関するトラブルと今後の市の対応方針について (1) 南中津原の太陽光発電事業において、パネルの影となる樹木の伐採を契約対象外の林で実施したことがトラブルの原因とされているが、市としてこの事実をどのように把握しているか。 (2) 民間による開発行為であっても、市はこの事業者は何らかの形で許可や手続きを行ったはずである。その許可の根拠と、問題発覚後も中止ができない理由を明確に伺う。 (3) 林の地権者が泣き寝入り状態に置かれているという声がある。市としては、住民に寄り添う姿勢をもって何らかの相談支援や助言を行う考えはあるのか。市民保護の観点からの具体的な対応策を問う。 (4) 東貝野地区では、太陽光事業者が移転登記を行わないまま土地を使用し、結果として固定資産税が雑種地扱いとなり、前所有者が高額な税負担を強いられていると聞く。このような税務上の不公平について市は把握しているが、是正策を考えているか。 (5) 一方で、市が進めている公共施設の屋根上太陽光発電事業の進捗状況はどうか。導入予定施設数、現在の設置状況、スケジュールを伺う。 (6) 学校など公共施設に設置する場合、火災リスクについての安全対策は十分か。特に、パネルに含まれる有害物質（カドミウム・セレンなど）の流出リスクや、東貝野で発生した1万㎡規模の火災などを受け、危険性をどう認識し、対策を講じているのか。以前の一般質問の答弁では、環境部は火災にならないようにするとの答弁であった。 (7) 太陽光発電所における銅線の盗難被害が全国的に増えており、市内でも同様の被害が確認されている。防犯対策として、どのような支援策や指導・啓発を行っているか。 (8) 最近では、蓄電池事業を山林や空き地に設置する事業者も現れており、これまでの野立て型太陽光事業と合わせて、緑地の減少が懸念されている。市として、環境と開発のバランスをとるために、条例やガイドラインによる開発規制を検討する考えはあるか。

次ページへ続く

順 番	質問者 会派名 (会派の持ち時間)	質 問 項 目
5	片山 秀樹 新風いなべ (180分) ※質問制限時間は 1人60分	3 農業の後継者問題と地域農業の持続可能性について (1) 稲作農業における米価格高騰と在庫不足の現状認識について 近年、いなべ市においても稲作農業をめぐる状況が大きく変化している。特に今年度は、米価格が高騰し、農家に在庫がほとんどない状況が起きている。例年とは異なるこの異常な状況について、まず市としてどのように現状認識をしているのか。 (2) 海外輸出と国内供給への影響について 市内の米はドバイなど海外への輸出契約が進んでいると聞いている。この輸出が国内の米不足や価格高騰にどの程度影響しているのか、市としての分析や見解を聞く。 (3) 輸出契約は3年契約で価格の見直しができないという農家の声もある。こうした状況の中で、契約の見直しや解除を希望する農家は出てきていないのか、課題など実態を聞く。 (4) 米の安定供給・安定価格への施策について 主食である米の安定供給と価格の安定化は、食の安全保障の観点からも国の政策も大事だが、市でも重要なテーマだと考える。 現在の市場依存型の流通構造だけでなく、市として中長期的な米の安定供給体制を支える施策を検討する必要があると考えるが見解は。 (5) 野菜農家支援と人材育成の制度活用について 一方で、野菜農家からは「常時雇う人手はないが、規模を広げたい」という声も多く聞かれる。このような農家に対し、地域おこし協力隊や地域活性化企業人などの制度を活用し、人材育成と継続的な支援を行うことは考えられないか。市の支援策の可能性について考えを聞く。 (6) 地産地消プロジェクトと地域活性化起業人の役割について 3月議会において、地域活性化企業人を活用し、学校給食を通じて地産地消の取り組みを進めるとの方針が示された。1学期に1度の提供からスタートするということだったが、この取り組みを段階的に成功へ導くための戦略や工程表のようなものがあるのか。 (7) 活用される企業の詳細について 3月議会では、まだ企業名を公表できないとのことだったが、すでに予算が議決されていることを踏まえ、企業名と概要、派遣される企業人の専門性や実績など、明らかにできる情報を示されたい。 (8) 企業選定の理由と妥当性について この企業を選定した背景には、いなべ市の農業や地産地消とどういった親和性や実績があったのか。他の候補がある中で、この企業を選んだ決め手となった理由は何か。

次ページへ続く

順 番	質問者 会派名 (会派の持ち時間)	質 問 項 目
6	原田 敬司 新生つばさ (135 分) ※質問制限時間は 1 人 60 分	1 定住・移住・交流の促進を (1) 人口流出の対策・施策について ① 自然環境による人口は減少の一途をたどっている中、社会動向については、過去3年を見ると微増に転じている。この内、10代、20代、30代の転入・転出の直近の状況はどうか。 ② 三重県全体で見た場合でも、15歳から29歳の若年層、特に若い女性の県外転出が顕著である。この要因として、これまでも進学、就職があげられてきた。就職に関しては、三重県のジェンダーギャップ指数の経済分野において全国46位となっていることからわかるように、特に若い女性の転出が止まらない状況にある。これは製造業が盛んなことも要因として考えられる。このような状況を受け、市は、県と連携して対策を考える機会を持っているか。 ③ 企業の異動による転入転出を除いた10代から30代の人口動向について、市の定住・移住・交流の促進を図る施策に反映するための分析、所見は。 ④ 勤・通学の不便さを理由に、近隣自治体へ流出している人口への対策は。 ⑤ 若い世代の流出について、いなべ市の傾向として近隣自治体への流出が目立つ。市長は、近隣自治体の子育て、教育、就業環境の整備、交通などの施策を比較して、いなべ市に足りない施策、必要な施策を分析、検討していることは。 (2) 人口流入の対策・施策について ① 空き家バンクの登録を促すための広告を新聞で目にするが、成果は。 ② これまで、移住、交流・関係人口を増やす目的で観光施策を進めてきた。観光人口に関しては効果が出ていることが目に見えてわかるが、移住、関係人口の効果はどれほどかが見えない。どのような分析を行い、成果を見ているか。 ③ 移住、関係人口の増加を促進するため、直接市民が受けられる施策（子育てサービス、教育の質向上、市内で通学・就業できるための誘致など）を拡充する考えは。 2 高齢者の生活支援サービスの充実を (1) 高齢者の状況として、最新の町別高齢化率と高齢化率が高い地域は。 (2) 高齢者の生活支援サービスを提供する事業者、団体の状況と、提供者に対する市の支援は。 ① 家事援助 ② 外出支援 ③ 移動販売 (3) ごみ出し支援は市内全域をカバーできているか。 (4) 身寄りのない高齢者の安否確認、見守りの役割分担、体制をどのようになっているか。 (5) 自治会単位、小学校区単位での生活支援サービスの充実を図るために、強化すべき点は何かと考えているか。

次ページへ続く

順番	質問者 会派名 (会派の持ち時間)	質 問 項 目
7	伊藤 三保 新生つばさ (135分) ※質問制限時間は 1人60分	1 健やかで安心できる社会の実現を (1) 出産や子育てへの支援充実の一環として、授乳室でも搾乳しやすい工夫や、職場における搾乳など、必要な方が安心して搾乳できる環境づくりに取り組むべきと考えるが、市の見解は。 (2) 公共施設、商業施設、事業所の授乳施設に「搾乳マーフ」の設置を推進するなど、搾乳に対する理解を進め、搾乳の必要性について意識啓発を図る考えは。 (3) 庁舎内の授乳室には、給湯器などの設備がなくミルクが作れなくて困った、との声を聞く。給湯器やポットなどを設置する考えは。 2 子どもが輝く未来の学校目指して (1) 探究学習と言えば、総合的な学習の時間の取組が挙げられるが、本市が取り組んでいる総合的な学習の現状と課題は。 (2) 本市の探究的な学習を推進するための方針は。 (3) 本市の教育理念は、「生き抜く・生き合う・生き拓く」の3つの力を育み、個別最適化、「非認知能力」を育み、自己肯定感の向上を図り、子どもたちのウェルビーイング (well being) を実現していく、ということで大変に素晴らしいと考えるが、具体的な取組、成果は。 (4) 探究的な学習は、子どもが興味を持ったテーマを決めて深く掘り下げていくと考える。自分一人で決めたテーマをひとりで取り組むのもいいし、グループで共有することもできる。例えば結果をタブレットで発表するなどすれば、登校しなくてもクラスで共有できる。そういう点で、不登校の児童生徒が取り組みやすく、学びの保証にも繋がるのでは、と考えるが市の見解は。 (5) 東京都渋谷区教育委員会では、教育委員会事務局の指導主事のかたが中心になって、学びを変える、探究「シブヤ未来科」という方式で2024年から区内の全ての小中学校で一斉に、教科学習を1割減らし、午後の5時限、6時限に総合的な学習の時間を倍増させて探究プログラムに取り組んでいる。 このような取組は今後必要になると考えるが、本市でも研究し、取り組む考えは。
8	渡辺 一弘 新生つばさ (135分) ※質問制限時間は 1人60分	1 いなべ市のスポーツ施設について (1) いなべ市温水プールについて ① 令和6年4月に「いなべ市温水プール」がオープンし1年が経過した。プールの使用実績（委託、一般利用）と収支報告の状況は。 ② 指定管理者を選定した際、他社よりも優れていると判断した基準は。また、その基準がきちんと実行されているのか ③ 施設利用に関し、市民からの要望や苦情は。 ④ 海津市民プールでは、北勢スイミングクラブや桑名高校水泳部が練習で使用する時、1コースを貸し切りで利用できるが、いなべ市温水プールは、コース貸しどころか、団体で使用するな！アドバイスもするな！と使用ルールが厳しく、本当に市民のためのプールなのか！という声がある。団体で利用してはいけない理由、運営の指導や改善点をどう考えるか。 ⑤ 市内施設をスポーツ少年団が利用するときは免除となっているが、北勢スイミングクラブがいなべ市温水プールで練習するときには、一般入場者と同じ料金で利用している。子ども一人1回500円の費用が発生することは、水泳というスポーツを選んだ子どもたちにとって優しくないシステムではないか。 (2) 市内のスポーツ施設・文化施設の予約システムについて 令和6年6月定例会の出口日佐男議員の一般質問でも、施設予約システムの改善について質問があった。施設の予約について、一部の団体が予約を押えてしまうと、他の団体が予約がとれなくなるという不具合がある。また朝早く並び、施設の予約を取らなくてはならない負担もあり、施設の予約を公平に、また負担が軽くなるシステムの導入を考える必要がある。現行システムは、公平・公正、利用しやすさが担保されたものと考えているのか。

次ページへ続く

順番	質問者 会派名 (会派の持ち時間)	質 問 項 目
8	渡辺 一弘 新生つばさ (135分) ※質問制限時間は 1人60分	2 市内道路の維持管理について (1) いなべ市舗装個別施設計画に記載されている、 分類Aの道路（市道のうち、地域内外の交通に果たす役割を考慮し、重要性が高い道路）の点検頻度は5年に1度、分類Bの道路（市道のうち1級及び2級市道で、分類Aに該当しない2車線以上の幹線道路）の点検頻度は10年に1度、分類C（その他市道で、過去に路面性状調査を実施した重要性の高い2車線以上の幹線道路）の点検頻度は毎時、分類D（上記分類以外の道路）の点検頻度は毎時となっている。 それぞれ直近の点検で、ひび割れや轍の状況は、また、どれくらいの割合で修繕に向かっているか。 (2) 一般会計に占める土木費について、類似団体と比較した場合、いなべ市（221.83㎡）土木費8.2%、亀山市（191.04㎡）土木費14.5%、恵那市では（504.24㎡）土木費10.2%となっており、本市の土木費に占める割合は1ケタ台である。 道路を守るための費用の増額確保は必要不可欠ではないか。所感を求める。 (3) 自治会要望で出された道路の修繕について、令和6年度の実績は。
9	伊藤 智子 創風会 (60分) ※質問制限時間は 1人60分	1 いなべ市の豊かな森林を活用したまちづくり (1) アウトドアフィールドの整備が進む中、これら事業の目的に挙げられている森林を活用したまちづくりについて、今後、一体的にどのように展開していこうとしているか。 (2) 森と緑の基金事業について、活用の見直し、拡充を図る考えは。 (3) 市民の健康増進のために、いなべ市の自然を生かし行っていることは何か。元氣クラブやいなべでの活用はあるのか。 (4) こども園、小中学校などで、いなべの自然に触れる機会はあるものがあるか。 (5) いなべの未来を担う子どもたちのため、積極的に自然の中に身を置くような機会を設け、いなべ市に愛着をもつための取組（グリーンクリエイティブいなべ、グリーンインフラ）の今後の展開は。 (6) 宇賀溪キャンプ場や青川キャンプ場・農業公園などに、市民が気軽に訪れて散策出来る所はあるのか。 (7) 全国60カ所ほどに、「森林セラピー基地」の認定を受けているところがあり、森林・自然・歴史探索などを住民の健康増進や地域おこしに役立っている。森林再生、環境保全、新たな観光資源の開発、弁当・食材調達のための農業者や飲食店との連携、ヘルスマンタル対策として団体や企業研修の受け入れ、森林セラピーガイド（森の案内人）の養成、森・道・トイレ・広場・ベンチ・宿泊施設・駐車場の整備などを行政・観光協会・商工会と連携して、住民に全ての場面で活躍の場をつくり、生きがい・収入・健康につなげて、自然をいかした市民活動を行っている。 いなべ市でも取り入れて、GCIやグリーンツーリズムとも連携し、いなべ市の森林が多い特徴を活かしたまちづくりを推進してはいいか。

次ページへ続く

順番	質問者 会派名 (会派の持ち時間)	質 問 項 目
10	岡 恒和 日本共産党 いなべ市議団 (60分) ※質問制限時間は 1人60分	<u>1 豪雨による土砂災害防止対策等について問う</u> (1) 藤原岳の小湊川、西之貝戸川、砂川の砂防堰堤の堆積状況等は。 (2) 西之貝戸川の最上流はセメント採石場とつながっているように見えるか影響についてどのように評価しているか。 (3) 西之貝戸川の下流域には土砂が堆積し、樹木も見られる。市の準用河川としてどのように管理しているか。 (4) 市内山麓に、樹木ごと崩れた箇所が多くみられるが、どのように管理、評価しているか。 (5) 土砂災害特別警戒区域では、①特定開発行為に対する許可制、②構造物の構造規制などが行なわれ、土地の評価額が下がることがある。令和7年2月現在で、特別警戒区域指定で固定資産税の減額対象にされている区域はどの程度あるか。 (6) 平成29年の法改正では、土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設の避難確保計画の作成及び避難訓練の実施が義務付けされた。実施状況はどうか。 <u>2 高齢者の現状と課題について問う</u> (1) 居宅サービスについて ① 通所介護、訪問介護サービスの提供は、十分足りているか。課題はあるか。 ② 介護者を支援する主な施策は何か。 (2) 施設サービスについて ① 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、保健施設の利用数、計画数の根拠は。 ② 特別養護老人ホームの待機者数は、直近5か年でどのように推移しているか。
11	西井 真理子 無会派 (45分)	<u>1 若者、子育て世帯に選ばれる「いなべ市」への取り組みを</u> (1) 保育サービスについて、保護者の希望する保育園へ通うことが困難になるケースが多くなっていることについて、現状と所見を問う。 (2) 放課後児童クラブについて、市外で働く保護者から「お迎えの時間が早くて仕事が制限されてしまう」という声をよく耳にする。また、放課後児童クラブしか子どもを見てもらえないため、親の負担は大きい。子どもの放課後の過ごし方について、現状と所見を問う。 (3) 地域での子どもの見守りは自治会によって様々であり、危険な通学路であっても毎日見守りができていない地域もある。通学の見守りについて、地域の実情を把握しているか。今後、特に過疎化が深刻になる地域での見守りについて、所見を問う。 (4) 物価高騰で米や食料の購入が厳しい子育て世帯に対し、市独自で支援する考えは。 (5) 定住しにくい地域への移住には定住支援補助金を設け移住促進をおこなってはどうか。